

令和3年—4年度期 第5回 世田谷区子ども・青少年協議会 会議録

■開催日時

令和4年12月16日（金）10時00分～12時00分

■開催場所

ダイ・ホーム世田谷

■出席委員

入澤充 志村健一 阿久津皇 高橋昭彦 中山みずほ 田中優子 森岡美佳

栄裕美 岡崎美恵子 勢能克彦 田谷雅弘 渡邊明宣

廣岡武明 下村一 奥村啓 新井佑 近藤三知香 丹羽有彩 中谷友美

■事務局

子ども・若者部長 柳澤純 生涯学習部長 内田潤一

子ども・若者支援課長 嶋津武則 生涯学習・地域学校連携課長 加野美帆

■会議公開の可否

公開

■傍聴人

0人

■会議次第

1 開 会

2 議事

（1）小委員会モデル事業実施状況の報告

（2）令和3年—4年度期報告書（素案）について

3 その他

4 閉 会

午前10時開会

○嶋津子ども・若者支援課長 定刻になりましたので、令和3年－4年度期第5回世田谷区子ども・青少年協議会を開会いたします。

本日はお忙しい中御出席いただきまして誠にありがとうございます。議事に入るまでの間、事務局として進行を務めさせていただきます、私、子ども・若者支援課長の嶋津でございます。どうぞよろしくお願いたします。

開催に当たりまして、一言、子ども・若者部長の柳澤より御挨拶を申し上げます。

○柳澤子ども・若者部長 おはようございます。子ども・若者部長の柳澤でございます。師走の何かとお忙しい中、第5回子ども・青少年協議会に御出席いただきましてありがとうございます。

さて、今年の6月から「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というテーマで御検討いただいております。当協議会も今回を入れてあと2回となりました。この間、協議会での議論を基に、小委員会、それから当協議会の取組に御賛同いただいている若者の皆様が様々な取組に挑戦していただいております。本日は、8月の協議会以降の検討状況と取組の内容を共有いただくことと、それから来年3月に区に提出予定となっております報告書を作成するに当たりまして、御議論を深めていただければと考えております。本日も委員の皆様様の活発な御議論をお願いいたし、どうぞよろしくお願いたします。

簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○嶋津子ども・若者支援課長 それでは、本日の協議会の出欠の状況でございます。本日は、事前に林委員、白井委員、開発委員、明石委員、藤原委員、平田委員、森島委員、増田委員の8名から欠席の御連絡をいただいております。2分の1以上の委員の方の出席になりますので、本日の会議は成立ということでございます。なお、阿久津委員につきましては、公務のため少し遅れての参加との御連絡をいただいておりますので、あらかじめ御了承願います。

協議会は、会議録を作成するに当たりまして正確を期するというので、速記者の出席につきましてあらかじめ御了承いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

なお、御発言の際には、事務局よりマイクをお渡ししますので、御協力をお願いいたします。

続きまして、本日の資料でございますが、次第に記載のとおりでございます。協議会の

進行に合わせて御紹介させていただきますが、不足、不備がございましたら、係員にお知らせいただければと思います。

それでは、早速ですけれども、本日の議事に移らせていただきます。これより先は会長へ進行をお願いしたいと思います。会長、どうぞよろしく申し上げます。

○会長 おはようございます。先ほど地震がありましたけれども、皆さん、どの辺にいたでしょうか。震源地は埼玉だそうです、震度3ということで、何事もなければというふうに思っております。

年末の慌ただしいときにお集まりいただきまして本当にありがとうございます。本協議会での審議は、先ほど柳澤部長がおっしゃったように、3月まで、報告書提出まであと2回となりました。本日はその報告書作成に向けて、前回の協議会以降、小委員会が活動してきた内容について報告と検討をいただき、委員の皆さんと本協議会の目的を共有していきたいと思っております。本日も活発な意見を皆さんからいただきまして、報告書をより立派なものにして、さらにそれが実現するように進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、本日の議論ですが、8月開催の第4回協議会以降、「若者ととともに変わる地域～若者の視点で」のテーマで、小委員会では学校チーム、商店街チームの2つのモデル事業実施に向けて調整を進めてきました。本日はその進捗状況を御報告いただくことと併せて、報告書素案の内容に対する御意見等を交わしていただきたいと思っております。

それでは、まず小委員会のこの間の取組状況について、委員長から御説明をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

○副会長 よろしくをお願いいたします。報告書の素案の10ページから28ページの辺りを見ていただきますと、どのような形で動いているかを見ていただくことができるかと思っております。今、会長からも御案内がありましたけれども、第4回の全体の会議が8月の末にございまして、その後、小委員会は10月と11月にさせていただいております。実は11月15日に前回の小委員会を開催させていただきまして、この後大きく動いたんです。学校の事業にしる、商店街の事業にしる、特にやっぱり学校は門を開けるのが大変でございまして、委員からも報告があるかと思っておりますけれども、その下準備を本当に丁寧にやっただきまして、ようやくその形が見えつつある、今日その報告をいただけるかと思っておりますが、船橋希望中学校、そしてここに来てぐっと活発になってきました大東学園高等学校、こちらは三者協議会というようなものを設けて、非常に特色ある教育を展開している学校

というふうにホームページで確認させていただきましたけれども、そちらのカフェが始まりました。

そして商店街のモデル事業につきましても、前回の小委員会以降、特にたくさん動いております。ちょっと私自身が行けなかったものですから、町の中の居場所づくりに興味関心がある大学院生がおりまして、その院生は、在住が世田谷でもありませんし、大学も区外なんですけれども、参加させていただきました。様子を伺いましたところ、町の方と、行政の方とも、年齢を超えた方々がとても和気あいあいとやられていて、東京都内にこんなつながりがあること自体がすばらしいと、その方々にとてもよくしてもらって、人間の温かさに触れてじんとしましたなんていう、そんな報告をいただきました。地方の若者から見ても非常に魅力的な活動が今世田谷の商店街チームで始まりつつあるという状況でございます。

詳細はこの後、またチームの皆さんから御報告いただけるかと思えますけれども、そのような形で、最初、去年はやはりコロナでなかなか動けないところもありましたけれども、地道に進めてきた成果が、ようやくここに来て花が開きつつある、そういった状況になっております。間もなく報告書に盛り込まなければいけないことなどもございますので、今日、忌憚のない御意見をいただきまして、これから後の年度末に向けての小委員会も進めてまいりたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、今、委員長からお話がありました各グループからの報告をお願いしたいと思います。

まずは学校チームの活動について、お願いいたします。

○委員 学校チームです。船橋希望中で中学校でのトライアルと大東学園とのトライアルということで2つやっていますけれども、船橋希望中のほうについては、以前御報告させていただいたように、3月と5月に出張アップスという形でやらせていただいて、その結果、学校側からの少し御要望もあって、学校のお休みの日に、なかなか学校に来れない中学生を対象に出張アップスをやってほしいということで、11月19日に実施しました。これについては、どんな環境にしたらいののかなということも我々はすごく悩んで、アップスと同じ複合施設に入っているほっとスクールの所長に話を伺いながら、場所、エリアごとにはっきりとした目的があったほうがいいのか、Switchみたいなゲームは絶対持っていったほうがいいのかというアドバイスをいただいて、環境設定をしました。生徒さ

んには、全保護者向けのメールを通じて、そういうのがあるから来れたら来てみたらというように発信していただいたんですけれども、残念ながらこの日は生徒さんは一人もいらっしゃいませんでした。ただ、まだ1回目のトライアルですので、こういうことを継続することによって、ひょっとしたら、そういうお子さんが出張アップスに来て、さらに学校に復帰できるというような道筋ができたらいいなと考えています。3学期、また日程を調整して、お休みの日にやるものと、学校の放課後にやるものと、またツータイプ続けていきたいというふうに考えています。

それから、大東学園のほうですけれども、青少協が中心になって学校と協議をする中、学校の中に学校ではない価値観みたいなもの、ほっとできる居場所みたいなものが必要だということも学校の中でも議論をされていたということで、ぜひ積極的にやっていただきたいということで、日程はもう本当に毎週来てもいいというふうに言っていたんですけれども、実際には11月29日から月に1回のペースで2月14日まで実施をするということで、現在2回終了しています。ちょうど1年生の昇降口がある、その目の前の教室をお借りして、3時半から5時半にやっているというような形です。1回目から40人を超える生徒さんが来て、長い子はもうフルにその時間いらっしゃるというような形で、いろんな地域の方と若者が話をするような空間ができたというふうに思っています。

1回目に来た生徒さんに、こういうのが継続的にあるんだったらどんなふうにしてほしい？どんなものを持ってきてほしい？ということは付箋に書いて貼れるようにして、例えばSwitchみたいなゲームを持ってきてほしいとか、ナンジャモンジャというアナログのゲームを持ってきてほしいとか、ギターを持ってきてほしいとかということがあったんですけれども、2回目が試験の前日ということもあって、2回目はあまり音の鳴るものはやめようということで、今回は持ってこれないけれども、この次は持ってくるからというお約束をしました。そのナンジャモンジャというゲームを持っていくと、生徒さんが、このゲームは私が言ったから今日ここにあるのみたいなことを自慢げにほかの友達に話すようなところがあって、何か自分が意見を言うことで変わっていくということを少しずつ実感してもらいながら、継続できたらいいなと考えております。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

○委員 皆さん、おはようございます。私は、第2回のカフェのほうに参加させていただ

きました。スタッフということで参加させていただいたんですけれども、先ほどお話があったように、試験前日にもかかわらず、59名も参加していただいて、いろいろお話を伺ったりもしたんですけれども、やっぱりああいうところにいると、縦の関係とか、横の関係、大人と関わるということで本人たちは自分のことを話したいというところがすごく見えて、やっぱり自分のことを話して自分でアピールしたいという感じが受け取れました。

目的としては、やっぱりいろんな多様性の人たちと交流するとか、大人たちと交流して自分たちのその先が見えたりというところでは、とてもクリアできるのではないかというふうには思っております。ただし、まだ2回ですので、なかなか本人たちの本音まではちょっと引き出せないというところがあるので、子どもたちが次はいつなのと言って、1月よと言ったら、ええって言うぐらい、やっぱり開催して、みんなで集まって、ちょっとしたお菓子を食べながら、ほっとしながらちょっとお話しするという機会を増やすことによって、何か自分の思いを伝えられたりとか、そういう場になっていくのではないかというふうに私も思いました。

今後まだ2回ありますので、どうなっていくかは分からないんですけれども、とってもいい活動ではないかなというふうに思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。また後で参加された委員の方々に御意見を伺います。

続いて、商店街チームのほうに行きたいと思います。お願いいたします。

○委員 おはようございます。今、商店街チームの報告をしますけれども、配っていただいた資料の報告書の素案の25ページと26ページをちょっと開いていただきたいんですけれども、まず、しもきた倶楽部ということで活動しているんですが、そもそもしもきた倶楽部というのは、我々が考えているのは、地域の大人と若者が協力して地域を盛り上げていこうというような考えでやっています、その目的というのは、26ページの上のほうに書いてあります。好きや得意を仕事にして生きている人とフラットな関係で話すことで、未来にワクワクしてもらいたい。それから大事なのが、生き方の選択肢を広げる種まきをしたい。ふだん出会わない、関わらないような人と交流する機会をつくり、新たなつながりを得られる場にしたい、こういう目的で動いています、いろいろやっておるわけなんです。

先ほど副会長から話がありましたように、8月以降、9、10、11とやってきまして、

11月頃大きな転換があったということなんですけれども、それをちょっと話します。9月頃は、ゲストを呼んでトークしてもらおうという話になっていまして、場所がナワシロスタンドというところで、岩男さんという、俳優であり、服飾関係の仕事をしている方をゲストに呼ぼうと、場所とゲストも決まっていたんですけれども、11月に入りまして、両方それがいろんな都合で駄目になりました。それから新たな場所とゲストを探すということで、区の職員の方々や、下北沢の商店街の理事長、商店街に関わっている方にいろいろ動いていただきまして、12月9日に、イベントの場所はボーナストラックを使わせてもらうことになると。それから、ゲストは、26ページに書いていますけれども、株式会社アイラブの代表取締役社長、西山さん、それからお粥とお酒ANDONシモキタ店長の武田さん、このお2人にゲストとして来ていただくということになりました。このアイラブというのは、下北沢の地域の店舗のソリューションを提供したりとか、あるいはイベントを開催している会社です。

それから、イベント名も決まりました。イベント名が「Hub culture」、これはカルチャーの集約、カルチャーに限らず、人もいろんな人がいると。先ほどの話にもありましたけれども、いろんな多様性のある人、年代も若い人から高齢者まで含めて多世代を含む。カルチャーもいろんなカルチャーがある。洋服だっていいし、食べ物だっていいし、あと劇場でもいいと、そういうカルチャー、何でもいいという意味での「Hub culture」ということでやることになりました。

この25ページをちょっと見ていただきたいんですけれども、25ページの真ん中の左のほうに、ポスターがありますけれども、これは若者委員が中心になって作っていただいたんですけれども、サブタイトルとしては「シモキタ解剖」、下北って何ぞやということを経験していくという趣旨です。その間、若い人たちを中心に、我々も含めて月2回程度の話し合いを行いまして、それから、多分若い人たちは若い人たち同士で密にいろいろ連絡を取り合ってやってきたんだと思います。それから、区の方々とか、ほかの委員の方々によってSNS等での呼びかけ、「ねつせた！」なんかにも御協力いただいて呼びかけを行って、12月9日に多くの若者が参加しました。

12月9日当日なんですけれども、若者たちはゲストのトークとゲームなんかをやるということで、実は私を含めて大人は、このポスターにある「軽食」と書いてあるんですけれども、若者のために軽食を作るということをやりました。若者がやっている隣にキッチンがありましたので、そこでおにぎらずという名前のおにぎりを握っていました。私もこ

の委員になって、まさか自分がおにぎりを握ることになるとは想像していなかったんですけども、私のみならず、大人の委員みんなおにぎりを一生懸命作りまして若者に提供したということです。ですので、当日、実際にゲストトークの話とか、ゲームの話は、大変盛り上がっているなという雰囲気は感じたんですけども、中身はちょっとよく分からないので、その辺については、実際にこの会を企画して運営してきた若者委員のほうから話をしていただければなと思いますので、よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○委員 イベントなんですけれども、すごい盛り上がって、本当にいいイベントになったなというのがまずあって、大人チームの委員がみんなでおにぎりとかを作ったださって、それのおかげですごい、参加者も心がほぐれて、話しやすい雰囲気ができたのかなというふうに思っています。

内容については、26ページにもあるとおり、最初に、参加者同士でアイスブレイクでちょっと仲よくなった後に、ゲストの方にトーク、自分のお仕事の説明であったりとか、どういう経緯で今そのお店を立ち上げたりとか、イベントを今いろいろやっているのかということをお聞きすることができました。イベントの後にアンケートも取ったんですけども、そのアンケートを見ると、ゲストの方のトークの満足度がすごく高かったので、参加者の方もすごい得るものがあったのかなというふうに思っています。

その後に、ゲストの方がせっかくいらっしゃるので、ワークショップという形で、下北沢でお店を出すならどんなお店を出してみたいかというのを考えていただいたりとか、あとは飲食店をやられているゲストとイベントをやられているゲストの方がいたので、飲食チームとイベントチームというふうに分かれ、イベントもどんなイベントを下北でやってみたいかというのを考えてみようというので、グループワークでそれぞれどんなことをしてみたいかというのを考えたんですけども、そこでもすごく盛り上がって、もういろんな人のいろんな意見が出てきて、それをまとめてすごくそれぞれいいお店だったりとか、イベントとかが考えられたんじゃないかなと思います。

その次に、人生ゲームトークといって、すごろくの升がトークテーマみたいになっているものなんですけれども、写真が27ページの中段の右とかが分かりやすいかなと思うんですけども、自分の過去と今と未来というのを何となくテーマにして、トークテーマを設定して、それをどんどんみんなで話していくというようなのをやりました。そこが一

一番満足度が高くて、10人参加してくださったんですけども、満足度が10人ともそれがすごい楽しかったというふうに言っていたので、やっぱりその人の人となりがかかるというか、その人の個性に触れることができるというところで、人生ゲームトークの満足度がすごく高かったのかなというふうに感じています。

最後は、そのイベントが終わった後にちょっと余韻に浸ろうということで、キャンドルの明かりをともしながら緩くお話しするというふうな時間を取って、それでイベント自体は一応終了しました。

終わった後のアンケートを見て、アンケートの設問の「下北沢を身近に感じましたか」というところで、10人全員が「感じた」「まあ感じた」だったんですけども、やっぱりイベントをやったりとかお店を出したりとかで、地域をつくっている方とすごいフラットな形で交流したことで、すごい地域を身近に感じることができたイベントだったのかなというふうに思います。また、イベント時間についてちょうどいいという人が一番多かったんですけども、短かったよというふうに言ってくれた方もいたので、短い、もっと話したいというふうに思ってくださいというのはすごい本当にいいイベントだったのかなというふうに思います。

今回初めてのイベント開催ということで、すごくうまくいくなというのが不安だったんですけども、参加者自体も誰かの知り合いというのじゃなくて、例えばSNSを見てとか、ポスターを見てというので参加してくれた方で10人集まってくださったので、そこはすごいうれしかったというか、今後も継続してやっていけるんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。また後で御質問が参ると思いますので、よろしくお願いいたします。

補足をお願いします。

○委員 委員の報告にありましたように、アンケートを取ったんですけども、多分、御本人だとちょっと照れて言えなかったのかもしれませんが、感想、自由意見として、非常に褒めている意見が多くて、それをちょっと読み上げさせていただきます。参加者の感想です。貴重な機会をいただきありがとうございました。10代、20代と話す機会がほとんどなかったので、貴重な機会、ありがとうございます。グループディスカッションで出たのをぜひ実現していきたい。人生ゲームでもっと長くいろいろな人からいろんな

話を伺いたかった。新しい発見、出会いがあってとてもリラックスできてよかったです。今日会った人々と1回限りではないつながりがあるといいと思った。とても楽しかったです。ふだんリモートワークで、20代、30代の方のイベントなどがあると参加したいです。とても楽しかったです。またこういうイベントを開催してくださいと、こういう感想が出ております。

○会長 ありがとうございます。

時間の関係上、各チーム、学校と商店街、2名の方々の報告をお願いしました。今まで聞いたこの2名の報告をいただいた内容について、協議会委員の皆様から御意見、御感想を積極的にいただきたいと思います。私のほうから指名してまいりますので、ぜひ御意見等をいただきたいと思います。1番に当たったからといって別に気にしないでください。

区民委員からいきたいと思います。どうでしょうか。

○委員 今回から初めての参加なので、ちょっと流れをまだ飲み切れていないんですが、出張でやられた船橋希望中のことで、知り合いがやっぱり学校にちょっと行けず、ほっとスクールにも通っているお子さんがいて、学校に来れない人の別日を設けたというのがすごいいなと思いました。そのお子さんのお母さんの話だと、子ども自体が何で学校へ行っていないかが多分分かっていないんだよねみたいな話をされていたので、子どものそういうところは親でも分からないんだなということ、なかなかその地域の人が入っていくのってすごい難しい部分なんだなというのを感じました。

大東学園も知り合いのお子さんがいて、別の会議に出たときも、こういう新しい取り組みたいなところで大東学園の名前が挙がっていたので、娘がちょうど高校生がおりまして、大東学園に行っている友達とかもいるんですけれども、大東学園はいろんな新しいことにすごく参入しているんだなということ、最近耳にすることが多い学校だなと思いました。

私も高校生と中学生の娘がいるんですけれども、大人とつながるって、うちの娘は多分あまり気にしないで入っていけるタイプなので、こういうのがあると参加するかなと思うんですけれども、参加できない子のほうが言いたいことっていっぱいあったりするのかなと思って話を聞かせていただきました。毎月来ることに、高校生が楽しみにしているというのが、高校生ってのはじけているイメージとか、大人なんてとか言っているのかなと思ったんですけれども、それをすごい楽しみにしているというのをお話から聞いたので、高校生もまだ幼くてかわいいんだなと思いました。

○会長 ありがとうございます。御質問等はございますか。

○委員 大丈夫です。

○会長 分かりました。また後でお願いいたします。

○委員 ありがとうございます。

○会長 それでは、続きまして、お願いできますでしょうか。

○委員 御報告ありがとうございました。お話を伺った中でちょっと心に残りましたのは、大東学園高等学校での出来事で、参加した生徒から自分のことを話したいというような発言があったということです。もちろんこういう場所を整備していくということは非常に大切なことだと思いますし、逆にそこに行けば、どういうことができるのかとか、どういう自分の存在が周りの人に認めてもらえるのかとか、そういったことをやはり視野に入れながら取り組んでいけると、もっと広がってくるのではないのかなというふうに思いました。

私の仕事はハローワークなんですけれども、ハローワーク渋谷にはわかものハローワークというのがありまして、そこで若者の就職支援をしているわけなんですけれども、その中で長くフリーターとかで働いていて、正社員になりたいという若者も非常に多いです。そういった方たちを支援していく中で、ジョブクラブという1つのメニューがあるんです。初めて会う人たちが、4日間通いで、いろんなカリキュラムを経ながら就職活動に力を入れていくという狙いがあるんですけれども、最初は誰も知らないんで、ちょっと静かなんですけれども、2回目、3回目となってくると、顔見知りになりますし、そういう中でやっぱり自分のことを話せる時間ができたというようなことで、最後の4日目には就職活動を頑張っていこうというような若者が非常に多いです。ちょっとそれと重なった部分がありましたものですので、やはりそういう場をつくること、そしてその中でどういうふうなことを若者たちが自立的に展開をしてくれるのか、そういったことがしっかりと定着してくれればいいなという感想を持ちました。

○会長 ありがとうございました。

では、続きまして、いかがでしょうか。

○委員 私は、これまでこの会議に参加させていただいて、ト一横の問題とか、子どもの居場所がないのが非常に問題ですというような話をしてきたんですけれども、つい先日も、先週の土曜日に、私ども警視庁の少年育成課を中心に120名ぐらいの体制で一晩中ちょっとト一横に参りまして、補導してまいりました。ちょっと報道でも流れていましたの

で、御承知の委員の方もいらっしゃると思うんですけれども、およそ2年間ぐらいト一東対策ということで新宿少年センターという新宿を管轄する青少年センターを中心にずっと取組をしてまいりまして、少しト一横に来る子が減ったのかなというのを期待していたんですけれども、先週の一晩中補導をした土曜日は20名の少年、女の子が中心なんですけれども、いました。

やはり話を聞くと、家庭で親御さんとうまくいっていないとか、学校がつまらないとか、学校に居場所がない、いじめを受けているというような、これまでもお話をしてきた問題がやはり根底にあるということです。今日、この世田谷区の実組で校内カフェのお話などをお聞きして、やっぱりほっとできる場所として非常にこういう場所が求められているんじゃないか。本来はこういう場所に行ってくれると安心なんです。ところが、こういう場所がやはりまだまだ整備されていない、まだこれからの話で、また全ての各地域でできるわけではないので、これに代わる場所として、やはりト一横に行くと、そこにいる人がどういう人かというのがよく分からないまま、話は聞いてくれるというところでそこに行ってしまうという現状があるわけです。

なので、やはりお話を聞くと、これはいい取組だと思いますので、こういった場所を多くつくっていただきたいという部分と、できれば、いつでもこういう相談ができる場所、今、場所とか時間の問題というのはやはりいろんな制限があると思うんですけれども、どこかに、夜中でも例えば行って、こういう場所で誰かが話を聞いてくれると、安全な場所で話を聞いてもらえるという場所が本当に必要なのではないかなというのをこの間補導をしてまいりまして、感じたところです。引き続き、本当に大変応援したい取組です。

前にもお話ししました、我々警察というのは、居場所づくりという部分で、なかなかこういうところには弱いんです。緊急時の対応だとか、保護の取っかかりとか、入り口の部分はつくることができて、私どもも少年相談というものを受けていて、親御さんや子どもさんの話も聞いていますけれども、なかなかこういう場所として提供できるものを私たちは機能として持っておりませんので、本当に必要とされる場だと思いますので、ぜひうまくこれが発展していけばいいのかなというふうに思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。非常に現実的なところからお話をいただきました。

○委員 前回の協議会から大分進んでいる状況をお聞きしまして、すごいびっくりもしていますし、すごいと思っております。

商店街の下北ですけれども、結局募集をして来てくれた人というのは何人ぐらいだったんですかね。

○委員 10名参加していただきました。

○委員 10名。先ほどSNSで集まったと言われていましたが、知り合いが連れてきたということではなくて、SNSを見てたまたま来たという感じなんですか。

○委員 多分そうだと思います。

○委員 そうですか。では、どこから来られたかとかいうのもあまり分からず、その日初めて会う方々が10名加わっているという形ですか。

○委員 そうです。お友達同士で来てくれた方とかもいらっしゃったんですけれども、ほとんどが初めて会うという中のイベントです。

○委員 そうですか。そこでいろんな話を、自分の話をするというような機会が、人生ゲームとかをやりながらできるということなんですね。これはすごいと思いました。特に下北沢って若者の町みたいな状況になっているので、ともすれば危ない町にも見られてしまうような状況もあって、危ないことは潜んでいると思うんですけれども、その中に今言われた安全な場所ということがつくられているということは非常にうれしく思います。

また、大東学園という高校でやられたという、これもすごいですね。なかなか高校生に入り込むということが非常に難しかったと思うんですけれども、この高校生たちは、ここへどんな興味を持ってこられるんですかね。

○委員 大きく分けると2タイプいて、1タイプは、飲み物とおやつを取りに来て、しかもできるだけポケットにいっぱい詰めて帰りたいというような、割と肉食系の子たちが着て最初の20分ぐらいはカフェのコーナーがうわっとなります。それが終わると、もう1タイプのやっぱりみんなでおしゃべりをしたいという子は残って、おしゃべりしているというような形が多かったように思います。

○委員 なるほど。ありがとうございます。やっぱりここに行くと少しおなかも満たされるということが非常に重要なんだなという感じはいたしますし、やっぱり大事なのは、こういう場所をどうつくってあげられるか、工夫が必要なんでしょうけれども、やっぱりここにもこういう場所がある、ここにもこういう場所ができる、これは安全なんだと、安全じゃないものと安全なものがよく分かるような体制ができるというのが非常に大事なのかなという感じがいたしました。前回も居心地のよさという話がありましたけれども、本当にその居心地のいい場所をどれだけ提供できるかというのが、できれば、やっぱり地方

自治体の力なのかなという感じがいたしましたので、非常に感動いたしました。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 細かいところからちょっと聞きたいんですけども、「シモキタ解剖」のポスターの絵、真ん中の動物の、これがずっと気になっていて、これは何だろうというのから聞いてもいいですか。

○委員 これはすごい恥ずかしくて、ポスターを作るときに適当にペンで書いたんですけども、解剖にしたので、「狼と七匹の子山羊」があるじゃないですか。それでおなかを切るところがあるから、それをちょっとやってみようというので書いたものです。

○委員 そうなんだ。ありがとうございます。何だろうと思って、そういうことですね。でも、そういうところがすごい面白いなと思いました。解剖なんですね。

今お話があったように、10名がそれぞれ違うところから参加してきたというのはすごい貴重な場だなと思いました。やっぱり食べ物があるのっていいんだなと、学校のほうも含めて。今、小中学校だと黙食と、給食はまっすぐ前を向いて、しゃべらないで食べる。そして15分で食べるとか、20分で食べるとか、コロナ禍で食べるというところに会話がなかなかないので、そういう意味でいくと、こういう場っていろんな方もそうだと思うので、今だからこそすごくいい機会なんだなというふうにも感じました。

あと人生ゲームトークというのが、これは既成のものがあるんですか、ではなくて考えたんですか。

○委員 作りました。

○委員 なるほど。これは多分すごくいいなと思って、ちょっと写真をよく目を凝らしてみたら、学生のとときに好きまたは得意だった科目はとか、すごく答えやすいものがばばっとあるけれども、多分その会話の中からはいろんなその人の個性がきっと出てきて、自分の話をみんなで聞いてもらえるという場になったのかなと想像しました。

これは逆に学校カフェでもいいかなと思ったんですけども、学校カフェのほうは私も最初からすごい期待をしていて、休日に行われて、多分保護者に周知したということは、中学生はなかなか保護者の言うことを聞かなくなるので、来なくなるかなという気は、うちも中学2年生の息子が区立中学校に通っているんですけども、多分こんなのあるよともし学校で言っても、まず行かないんだろうなという感じはしました。ただ、これは貴重

な場だと思うのは、私のところは不登校の方の御相談が本当に今多くて、大体親御さんからなんですけれども、私は許される限りお子さんにも会うようにしているんですね。そうすると、今、教育機会確保法というのがあって、学校に行かなくてもいいと、無理に引っ張っていかなくてもいいとなっているので、親もつい、いいよ、行かなくてとお子さんを受け入れるような会話をするらしいんですが、お子さんに別で聞くと、実はその言葉がっらいという方も中にはいらっちゃって、本当はすごく行きたいのに行けない状態だから、いいよと言われちゃうともうそこで終わっちゃうと。その中には行事だけ行った子がいたんです。2年間学校へ行けなかったけれども、行事だけ行きましたという子も中にはいらっちゃったので、根強くやっていただくといいのかなという気はしました。周知の仕方とかは工夫が必要かもしれないんですけれども、この学校カフェには期待をしたいと思います。

あと今学校のほうで別室登校というのがあって、不登校の方が1200人を超えましたよね。その全てではないんですけれども、中には教室以外なら行けるという子もいて、給食だけ食べて帰る子とか、いろいろいるということなので、一歩でもちょっと学校に場があるというのは、不登校対策だけじゃないんですけれども、期待があるかなと思います。あとは校内の中でも、特に中学生は部活があって、授業が終わったらすぐ部活というふうになかなか話す人たちが限られるみたいなことも言っていたので、ここのフラットな場があるというのは、今後にすごい期待したいなと思いました。

学校のほうなんですけれども、質問があって、中学生の子たちが来たときに、結構大人と話すのって照れくさくていろいろあると思うんですが、どんな感じで最初に話しかけたりするんでしょうか。

○委員 出張アップスへ行っているのは、アップスの職員、私を含めて2名と、大学生のインターンと地域の方という構成で行っているの、比較的インターンとかスタッフは中学生と話すのに慣れているので、本当にさりげない何か興味、雑誌に興味を持ったら、その雑誌のアニメの話をしたりとか、何推しなのみたいな、そういう彼らのカルチャーみたいなものをなるべく尊重しながら話のネタというか、きっかけを探すというような感じです。

○委員 ありがとうございます。慣れている方がいらっちゃって引き出すというか、たわいのない会話が重なることでやっぱりいろいろ出てくるのかなと思うので、ぜひ続けていただきたいなと本当に思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 とても発展した報告が聞けてよかったなというふうに思っています。疑問に思ったり、聞きたいなと思ったことを委員が聞いてくれているんですが、やっぱり保護者に通知して土曜日ゼロだったというのが残念だったなと思うんですが、こういうイベントをやって、来た子たちはいいんだけど、来られない子たちはどうするんだろうというのは、私もちょっと気になっていました。先ほど委員からあった夜中でもこういう場所があるといいよねというのは、本当に夜中には絶対行かない子たちがほとんどの中、夜中しか行かない、行けないみたいな、それをとても必要としている子っているんだろうな、もしそれがあれば、何もト一横に行かなくてもいいし、かなり重い子が救われる可能性もあるんじゃないかというふうにちょっと思って、行政でどこまで手当てできるのというのと、非常に難しいかもしれないんだけど、これは1つ、本当に行政の課題として捉えるべきじゃないのかなとちょっと思いました。

よく音楽スタジオとか、ダンススタジオとか、夜中でもやっぱり効率よく稼ぎたいって言うとなんなんですけれども、使ってほしいから、夜中に貸し出しているところってあるんですよね。ですから、セキュリティーを万全にしなきゃいけない学校みたいな場所とか、行政の公共施設を使うのは難しいと思うんですけれども、例えばそういう場所を借りて、スタッフは大変ですけれども、夜中が得意の人もいるかもしれませんし、何かできたらいいのかなというのをちょっと課題として考えていただきたいなというのは1つ要望としてありました。

あと飲み物、食べ物はとても大事と、それだけ取りに来る子もいるというのもよく分かるんですが、でも、取りに行ったら何か面白そうだよということもあるでしょうし、取っただけで帰っちゃう子がいたとしても、こういう取組はすごくいいなと思いました。

それと人生ゲームトークはとてもいいと思って、オリジナルと聞いて、これはすごいなと思いました。こういうものがあると、何もないと誰からどうするみたいな、ちょっと雰囲気をつくるのは難しいんですけれども、ゲームでやっていって当たっちゃったから、じゃ、これは言わなきゃというのはとてもいいです。お互い知り合うきっかけになるので、これは広げたらどうですかと本当に思いました。いろんなところで、どんな会でも、いろんな人が集まったワークショップの場では使えるんじゃないかな、まずこれをやって、お

互いちょっと知っていたら、本来、今日の目的のワークショップをしましょうというきっかけづくりにもとてもいいと思ったので、感動したということをお伝えしたいと思います。本当にありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

それでは、続きまして、よろしく願いいたします。

○委員 前段の校内カフェのほうはちょっとお話を伺えなかったんですけども、皆さんのコメントの中からはいろいろ伺う限り、どちらの取組も、本当に当初の目的である若者とともに変わる地域というところに本当に近づいてきているなというのが率直な感想で、特に若者と地域の大人が交わる機会というのを増やしていくことで、若者の考えだったりとかというものを吸収して、彼らに地域に参加してもらって、さらに言えば、その悩みみたいなものも聞ける、そういった人間関係を築いていくことが、地域の絆みたいなものを深めて、よりよい地域になっていくんだらうなというのを改めて実感させていただきました。

これは私の体験のところなんですけれども、今消防団をやっている、うちの消防団には大学生が4人いてくれるんです。もう今4年生で、もう時期卒業なんですけれども、4年間、コロナでちょっと1年、地元に戻ったりしましたけれども、一緒に火事場に行ったり、一緒に訓練したり、そういった空間とか体験を共有していく中で、信頼関係だったり、人間関係が構築されて、この間、彼らの就職祝いみたいなこともやったんですけども、その中で、進路に関するお話だったり、将来に関するお話だったり、あるいは家族のこととか、そういった話をできるようになっていくんですね。これはやっぱりそれぞれの人間関係を築く上での時間と空間を共有していくことが大事だなというふうに思っていて、そういう場が今だんだんなくなってきているというか、今までだったら、お祭りだったり、地域での清掃活動だったり、町会・自治会みたいなところに頼っているところがあったのか分からないですけども、そういうものがなくなっていく中で、新しいものをつくっていくことが必要なんだろうなと思っていて、それがまさにこの校内カフェであったり、さっきのハブ、シモキタの話になるんだらうなと思っていて、その中でSNSなんかを使って人間関係を築いていって、最後はやっぱりリアルで対面していくということが大切だなということを改めて気づかせていただきました。

この取組をさらに進化させていくことで、よりよい地域になっていくというのが、本当に見えてきたなと思うので、これを区取組として、政策として実行していくというこ

とまで昇華させていくことができるんだらうなというのを感じさせていただきました。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

○会長 協議会に大いに刺激を与えた小委員会からの報告だったと思います。ありがとうございました。

それでは、議事の2つ目、令和3年－4年度期報告書（素案）について審議していきたいと思います。

本協議会は、昨年8月に区長より依頼された審議テーマ「若者ととともに変わる地域～若者の視点で」について皆さんに議論、検討を重ねていただいております。検討に当たっては、今報告がありましたように、実際に現場に出向いて、学校、商店街の2つのモデル事業を取り上げてきたというところがございます。これを来年3月の協議会にて、今日まで話されたことをまとめて報告書にして区長へ提出したいと思います。本日はこの報告書の素案を御確認いただき、皆さんに御意見を頂戴したいと思います。

それでは、協議に入る前に、報告書の構成について、小委員会で御議論いただいた内容を御説明いたします。

よろしく願いいたします。

○副会長 それでは、これから報告書（素案）についての説明を少しさせていただきます。正直なところ、小委員会のほうの取りまとめをさせていただいているわけですが、本当に私は何もやっておりませんで、やっつけてくださっているのは委員の皆さんなんです。それをうまくこれから報告書にまとめていくに当たり、苦勞というか、努力しているところがございます。今日、皆さんに様々な意見をいただきまして、よりよい報告書にしていきたいと思います。

まず、この令和3年から4年までについての報告書、令和5年3月に発行される予定になっていますけれども、大きく3つの章から構成されていることになっております。目次のところを御覧いただければと思いますけれども、第1章のところは、これまでの検討の趣旨と経過が載っております。世田谷区の若者の人口の動向であるとか、あるいは子ども・青少年協議会の取組の経緯等々が書かれておりますし、また、審議のテーマ、検討体制について記載させていただいております。またこの間、やはり新型コロナウイルスというようなものが全国的にもいろんな対策を考えなければならなかったわけですが、子ども・青少年協議会としてのところの対策もこちらのほうで報告をさせていただいております。この内容に関しましては、11月に開催されました小委員会で委員の皆様にも確

認をしていただいているところです。

続きまして、第2章となります。こちらがこれまで報告をいただきましたモデル事業の実施・検証についての記載になります。11月の小委員会においては、チームごとにグループワークをしていただきまして、モデル事業のまとめ方などについて御議論をいただいております。中身に関しましては、もう既にこれまでのところで、学校のモデル事業、商店街のモデル事業について御報告いただいておりますので、割愛させていただきますが、本当に魅力的な活動が行われているということが、こちらの第2章のところでどれだけ文字化できるか分かりませんが、写真なども使って御報告をさせていただければと思います。

そして、大事な第3章の提言という部分になります。会長から今プレッシャーを少しかけられたような、そんな気がいたしますが、小委員会で議論したところによれば、新たな提言をするということよりも、今ある提言、これまでの提言に対してどのような取組がなされていて、何が足りないのか、より実情に即した取組をするには何が必要なのかということ、そういったものを加味して検証していく必要があるのではないかと御意見がありました。それは、今期の提言に対する考え方ということになるかと思っておりますけれども、実績を見える化していく、これは数値によるものとかいろんな方法があるかと思っておりますけれども、これまで区全体で取り組んでいるものを私たちが知らないところでも様々な取組があるということが分かりましたので、そういったことなども含めて取組を見える化していただきまして、そしてそこに対して、今申し上げたような、これからどんな取組が必要なのか、今期区長からいただいておりますお題に基づいて進めていく必要があるのかなというふうに思っております。

最後の部分が資料編ということになりますが、協議会の資料などを添付してということになります。

報告書の素案については以上になりますけれども、34年前、1988年のことなんて皆さん多分何も覚えておられないかと思っておりますが、部長さん、課長さんクラスは入職した頃になりますかね。私は大学4年生のときだったんですが、世田谷区の青少年の取組に宿泊の取組があつて、社会教育課のイベントだったんですが、宿泊で産業観察をさせていただいたんです。それが世田谷区との最初の取っかかりになったような気もしておりますけれども、その頃から実は泊まりの場所というのが、世田谷区にはあるようなんです。ですから、先ほどのことなんかも含めまして、これからますますできることって本当

に世田谷区の場合は限りなくあるなというふうなことを感じております。

私自身は今北区に住んでいますけれども、北区だとやっぱり赤羽なんです。赤羽だと本当に昼間からせんべろというキーワードがあって、ちょっと下北沢とカルチャーが違う、まさにハブカルチャーと、何でもありなのかもしれませんけれども、非常にそういった取組等々を含めて羨ましく思っているところです。

今後の取組などもここから様々な御意見をいただきまして、次のステップについての委員の皆さんのお考えを聞かせていただければと、この後1月、2月の小委員会のほうでの議論の参考になるかなというふうに思っていたところです。よろしくお願ひします。

○会長 どうもありがとうございました。今、委員長から報告書の内容について御説明がありましたけれども、繰り返しますが、今回の審議のテーマは「若者とともに変わる地域～若者の視点で」ということの報告書になります。これを踏まえて、特に第3章にあります次のステップについてのお考えを各委員からお聞かせいただければというふうに思います。

それでは、小委員会の委員の皆様につきましては、実際に活動されて感じられたことを踏まえながらお話しいただければというふうに、ちょっと制約をかけてまいります。また、その後、協議会委員の皆様からも積極的に意見をいただいきたいと思ひます。いかがでしょうか。

では、小委員会の委員の方々から御意見をいただきたいと思うんですが、まずトップバッターをよろしいでしょうか。

○委員 報告書の件は、今ちょっと学校カフェでいっぱい、どこを盛り込んでいって、世田谷区の区長からいただいたところにつなげていくかというところで、今思案しているんですけれども、前年度コロナでできなかったことを踏襲して今年度もやっておりますので、そういったことを盛り込んで、いかに学校の中に居場所が必要かということ強くこちらのほうに盛り込めればうれしいかなというふうにちょっと思っております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私も学校チームで活動させていただいているんですけれども、第2回のところでこのカフェに参加させていただいて感じたことは、やはり場があると接点ができるなというのはすごく感じたところです。日常生活の中だと高校生と接する機会、お話しする機会って本当に限られるなと思ひますので、それを若者にとってのいわゆる社会の場である学

校の中でそういう接点を持てるというのは、とても継続してやっていきたいなというのを感じたところです。

あと実際にやってみて感じたことは、やはり横のつながりの部分ですね。カフェへ一緒に入るスタッフの中でも、一緒に活動する中で理解が深まるといいますか、すごく距離感が近く感じられる部分があったなと思います。今私もメルクマールせたがやで若者支援に携わらせていただいていますけれども、アップスの方と一緒に何か活動するというのは新鮮な体験でしたし、そこでアップスの方と近づきになれるなというのもありましたし、そういう横のつながりもつくれる場になっていくなというのを感じたところです。

今回の「若者とともに変わる地域～若者の視点で」というところで、これまでもこの協議会の中で若者の声をどう拾っていくかというのがテーマとしても挙がっていたかと思うんですけども、その声を拾うためにまずは接点が必要だったと思いますし、そこで今場ができてきたという中なので、これをどう必要な場として報告書に載せていくか、それを実際に活動の様子からも、実践から伝えられるものが作成できるかというのかなというふうに考えております。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私は、船橋希望中の学校カフェと大東学園の学校カフェに参加しました。私がちょっと感じたことは、私はすごく近い地域に住んでいるんです。どちらもとても近い地域なんですけど、学校カフェに行ったときに、特に大東学園のときに、高校生の方とお話をする中で、もしも何か聞いてしまったとき、それが私が地域の人として参加したときに、どうすればいいのかというのは、本当に考えていかないと、拾った後のことを考えながら、その学校カフェをやる組織づくりをしていかないと本当に責任が重大なんだなというのを物すごく感じました。

今回アップスの方と、あとメルクマールの方と、地域、それから若い方と参加してみても、やっぱり専門家の力というのはすごくあるし、あとアップスという居場所があるのはとても心強いことなんだなというのをすごく感じましたので、そういう意味では児童館もそうですし、そうすると数がすごく増えますよね。今後、学校カフェをモデル事業として立ち上げていろんなところに広めていくときに、青少年交流センターだけではなく、児童館のバックアップもとても必要になってくるんだろうなと。そうすると、全部合わせるともう30館近くになるので、30地域でそういうことをやる。専門家の方もそこに御一緒に入ってもらって、地域の方と若い方という組織づくりをやっていくことは、本当にこうい

うことの責任の重大さを感じる。特に私は地域が近いので、ちょっとどきどき、夜中もやたらって、ちょっと待ってと思って、待ってください、無理です、私と思ったりして、我が事のようにどきどきしましたから。

あとそれから、提言で庁内連携というのがありますよね。学校カフェの場合は、教育委員会とどういう関係にあるのかが、私は組織が全く分からないんですけども、区立の中学校へ行くときも学校長の権限がすごく大きいから、学校長が俺が責任を持つと言ったら何でもオーケー、だから、学校長のよさそうな人を狙っていくしかないみたいな。教育委員会も、組織の中でどこか遊びというか、居場所的な専門のところがきっとあるだろうと思うんですよね。社会教育主事の方もいらっしゃるし。だから、教育委員会はどういう方針なんだろうとか、そういう御協力を、ちょっと庁内で検討していただいて、知らないじゃ済まないよということを教育委員会のほうにもおっしゃっていただきたいですよ。

私も若者と咲かせるネットワークという居場所、ネットワークでいろいろな交流会とかをやるんですけども、社会教育主事の方は出てこられますよね。でも、あとは全然、交流しようなんて思っていないのと思うぐらい。思っている方もいらっしゃるのかもしれないんだけど、ちょっとそこを連携しないと、学校カフェのほうの展開がなかなか進まないんじゃないかと思っています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。教育委員会との関係というのは、この会が始まってからずっと課題になっていたんですね。教育と福祉の統一的保障ということが各委員から出てきていたんです。大きな課題ですから、課題というのは改善しなきゃいけないことですから、ぜひ検討に入りたいと思いますけれども。

では、商店街チーム、よろしいでしょうか。

○委員 今まで商店街チームとしていろいろ、まち歩きから口コミを集めるマップを作成したり、今回のイベントとかを実施してきて、私たちは今、ここという場所を持たずにいろいろ活動してきて、やっぱりイベントとしてなので、単発での関係性づくりというのをやってきたんですけども、そのよさもあるし、アップスさんとか、世田谷区にはいろいろ場所があると思うんですけども、そこだからこそできるところとかも、多分どっちもあるのかなと思うので、場所としてあるところでできないというか、対応し切れない部分とかいうのがあれば、もっとイベントとかを増やしたりするような感じで、どっちもあるというのがいいのかなというふうに感じて、そこがお互いを補い合えるような

関係性になれたらすごくいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。ぜひそういう意見を取り入れていきたいと思います。

○委員 私も「Hub culture」のほうの商店街チームに所属しているんですけども、やっぱり継続性とか持続可能性というものが今の時点では少し難しいかなと思っていて、拠点がないというのもそうですし、メンバー、若者がどれくらい来れるかというのも、今回は幸い10人くらい来てくれたということなんですけれども、これからはどうなるかわからないかなというところもあるかなと思っています。

ただ、私は参加者として、企画はあまり携われなかったもので、当日、12月9日の「Hub culture」に参加したんですけども、4番目に書いてある人生ゲームトークがすごく楽しかったなと思っていて、これを1個私たちの軸というか、定番の企画みたいにして、これを目的で来てくれる人とかも後々できたらいいかななんて考えました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私も商店街チームとしてこの1年、下北のまち歩きとロコミマップと先日の「Hub culture」に参加させていただきまして、その間にも何回も若者の皆さんとか、世田谷区の皆さんと一緒に話し合う機会というのを与えられ、若者の居場所なんてあまり考えたことがなかったんですけども、この1年はとてもいろんなことを考えました。

大人の立ち位置ということをちょっと今考えているところなんですけれども、私は今60代なんですけれども、我々の母の年代は昭和1桁で、こうあるべきというような教育をなされてきたんですが、今の若者たちというのは、自分たちの声をそのまま社会につなげるというようなことができる時代が変わっていると思います。なので、この60代の私は両方の世代が、大体30年で世代が変わるとすれば、4世代目ぐらいが今見えるところに来てしまっていて、どうしてもやっぱり経験があると大人というのは、こっちにしたほうがいいんじゃないとか押しつきたくなってしまいうんですけれども、今回は若者視点でというのがテーマだったので、そういうふうに思う気持ちは取りあえず抑えて、若者がどういことを言うてくるんだろうと、それを楽しみに待とうというふうに気持ちを切り替えて参加するようにしました。そうしたら、本当に自分では思ってもいないようなことがいろいろ、こんな人生ゲームとかこういう企画も含めて、とても学ばせていただくことが多くて、本当にそういう意味では参加させていただいてとてもよかったなと思っています。

ます。

大人はどうしてもやっぱり押しつけちゃいますよね。意識していなくても、こっちじゃないというふうに、危ないところはこっちじゃないとか、避けるようなことをやってしまうんですけれども、今回私たちも、時間もなかったので、上手に参加することが途中からできなかったので、おにぎらず作りのほうに大人は集結したので、今後はもう少し多様性も含めて、若者たちと共にやっていければなおさらいと思うんですが、下手に遠慮をする必要もなく、自然に多世代が交流できるというところを目指して、大人は声を聞くというふうな立ち位置にちょっと意識的にしていかないと、難しいというか、押しつけちゃうという傾向はあるなというのを感じて、そういう意味では、この1年、いろいろなことが学べてよかったなと思っています。

○会長 ありがとうございます。

○委員 この報告書のことについては、前期からの取組の提言をより進化させる形でみたいになっていると思うので、その中には、若者の声をより反映させた内容だったりを入れていただけるといいのかなと思っています。ですので、あと報告書を出して、それで終わりというわけじゃなくて、その提言が実際にどう進んでいるかみたいところが継続して何か分かるような形で、区民の方だったり、いろんな方に見せていくことも大事なかなと思っていますので、そこをまたどういう形でやるかというのは1つあるかなと思っています。

私も商店街チームのところで、この間の12月のところに参加させていただいて、先ほどから出ているように、本当にすごいよかったなと思っています。実際、私たちは大人チームというところでは裏方に徹したといいますか、私はもうほとんど、料理教室に来たような感じで、ずっとおにぎらずを作っていたような感じだったので、何をやっているのかなと途中思いましたけれども、でも、若者たちは若者たちでその雰囲気をつくってやっていたので、大人もそういう形で関わるのがちょうどよかったのかなと思っています。実際には若者たちが自分たちでやりたいことが実現できる場だったり、先ほど場所の課題もありましたけれども、どうつくっていくかは大人たちが知恵を絞って考えていく必要があるのかなと思っています。先ほどハローワークのジョブクラブの話もありましたが、私たちサポステは就職活動を支援していくというところでは、1人でやっていく形がどうしても多くなりがちなところを、何人かでチームを組んだり、一緒に課題に取り組むとか、そういうことをやっていくと、自然と横のつながりだったり、お互いのいい

刺激ができて、前に進んでいけるというようなところもあるので、その横のつながりづくりだったり、それを支える大人といいますか、支える側の意識だったり在今后も継続してできる場があるといいなというふうに思っています。

以上になります。

○会長 ありがとうございます。

○委員 商店街チームの皆さん、いろいろここまで詰めていただいてありがとうございました。お疲れさまでした。僕もおにぎらずチームで、提言したいのは、委員の料理教室事業をやる。御飯がめちゃくちゃおいしくて、これはお店の味じゃないですかと言ったら、お店をやっていたのよみたいなことを言って、でも、これは結構大事で、やっぱり委員の人たちで話すと大体こういう話になりますけれども、人と人で話すといろんなネタが出てくる。やっぱりコミュニティーもそうですけれども、関係性が育まれるためには一定の1つのタグだけじゃなくて、たくさんのタグを共有することでつながりが強くなっていくというのがあるので、やっぱり1人の人間に秘められたたくさんのタグをどういうふうに見える化して、それをどうやってシェアして共有していくかという操作が多分すごく大事だなと思っています。

アンケートで、自分もやりたいことに挑戦したいというのが90%あったことはやっぱりすごくて、これを途切らせちゃ駄目だということですよ。だから、やっぱり場が必要だという順番になってくる。そこをどうやって守るかというのを目的としないと、場が目的になっちゃうとおかしくなっちゃうので、その声をどう続けていくか。さっきあった場の飲食は大事だよみたいな話もありましたけれども、これも僕も本当にそう思っていて、これは結構学問的なところで言うとバウンダリーオブジェクトというんですけども、やっぱりその場が人間に意味を与えとか、コミュニケーションを滑らかにするとかというのがあるので、そういった場の力、特に飲食を交えた場の力というのをどういうふうにつくっていくかというのはすごく大事だなと思っています。

場が大事というふうに毎回言って、それで終わっちゃうみたいなのところもやっぱりあるので、もう一步深く、場をつくるためにはどうすればいいかということも考えていかなくちゃいけないと思っていて、単純にこれも世田谷区さん、お願いしますみたいな話でもないような気がするところがあると思っています。だから、この場をつくるプロジェクトにおいて、関係人口的なものも見えるようにして、そこで共感値を高めて、ファンドレイジングするような仕組みだったりとか、その中に世田谷区さんからの助成金の補助なり

というのが入っている状態、ゼロ、100というか、何でもかんでも全部100%世田谷区がやりますとか、そういう話じゃなくて、ポートフォリオ分散して、10%、10%、10個が10種類みたいな形で、いろいろな様々な共感がお金になってそれが支えられている状態をどういうふうに事前に設計するかというのが結構大事なような気はしています。

この協議会も2年で1期みたいな形なんですけれども、コミュニティーって最低やっぱり10年はかかるし、僕自身も用賀でやっていて18年目だったりするし、でも、まだまだ分からないことがたくさんある。だから、そもそもこの構造もいいのかというところで、10年間5期分下北をやりますかという話だし、若者委員はどんどん社会に出ていって、関わりが薄くなるかもしれないし、濃くなるかもしれないけれども、だから、この提言をしてからそれを引き続きやるのか、リセットするのかというところもあるんですけれども、何か別のアプローチで、こうやって出たものを世の中に投げて、またそれがプロポーザルなのか、また違ったコミュニティーなのか分からないですけれども、だから、それがずっと生きていく状態というか、何かそういうのは改めてスキームを組んだほうがいいんじゃないかなと思っています。

最後に、自分の声が出世の中に出て自己肯定感が上がったりとかということがあると思うんですけれども、最近僕が思っているのは、やっぱりその範囲を設定することというのはすごく大事だなと思っていて、地方で和歌山県のフィールドワークをやっているのがいるんですけれども、目の前に町長がいるんです。だから、若者が町長にこういうことをやりたいと言ったら、じゃ、明日にでもやれと行って、すぐできる。すぐやったことに対して若者は、わあ、うれしいと行って喜んで、地域への愛と自己肯定感も上がる。都市にいると、それがすごく重層的で、いろんな人たちの意見とか、あとはベクトルもいろんな方向性もあるし、稟議を上げなくちゃいけないとか、いろんなことがあるんですけれども、そこをいかに突破するか、最短で突破するかということは、多分世田谷区って90万の規模ではなくて、もっとミニマムなユニットに抑えて、若者の声を通りやすい仕組みを大人が設計していくというのがすごく大事だなと思っています。だから、今回のシモキタプロジェクトは、下北というところに振り切って、範囲を設定して、そこの中で、上にすぐ声を通るような仕組みをそこだけでつくっていくというものが、まさに実証実験的にやれることかなと思っています。

あと3つぐらいあって、その範囲の設定と、あとオープンな場、それは場をつくるというところ、あとオープンというのは誰もがアクセスしてできるということと、あとは入っ

たら沼みたいにならないで、いつでも出ていいよという、出てもいいし、出戻りオーケーという状態はすごく大事だなと思っているのと、あとはやっぱり楽しい雰囲気ですね。真面目なことをやっても面白くないから、楽しい遊びな雰囲気をやっぱりつくっていくということは大事かなと思いました。

以上です。

○会長 どうもありがとうございました。小委員会委員の方々にお話しいただきましたが、まとめていただいた委員長、どう見ますでしょうか。

○副会長 ありがとうございました。非常に貴重な意見を頂戴いたしました。

本当にこの2年間、特にこの後半に入ってからぐっと進んできたものを継続させていくための仕組みづくり、それがやっぱり提言として残しておきたい部分かなというのはありますし、またこれまでの様々な区の私たちが知らない部分での取組を全て見える化していくことで、つながりがどこにあるのか、また教育委員会の話もありましたけれども、そういったところのどことつながっていくことによって、より動いていくのかなんていうことは、提言の中に考えていく必要が出てくるのかなというふうにも思いました。

実はオリヒメを今2台、小学校のほうで使っていていただいておまして、先ほど校長の話が出ていましたけれども、今年オリヒメを活用していただいている松沢小学校と多聞小学校も、校長先生のリーダーシップがやっぱりすごく柔軟で早いです。今のところ、去年が1校で、今年2校で世田谷でやらせていただいて、これまで小学校なんです。実は多聞小学校のほうで使おうとしているのが、先ほどお話がありましたけれども、保健室までは登校ができていますので、そこから先をちょっとオリヒメでうまく聞き取りができないかというふうなことも取組を始めていますので、もしかすると、来年度以降、新たな取組の一つとして、中学校のそういった取組でオリヒメを用意して、もし本人が来れなかったら、おうちにiPadがあれば、オリヒメで代わりに土曜日、みんなと交流してみないなんていうことが、可能性としてもあるかもしれませんし、そのための仕組みづくりはできていますので、またこの辺のところは教育のほうとの連携が必要になってくるかもしれませんので、新たな取組の一つとしてはやっつけていけるかなんていうふうには思いました。

また、食と場の話も委員から出てきましたが、非常に貴重な御意見をいただいたかと思えます。先ほどちょっと34年前の話をしましたけれども、そのときも食だったんですよ。若者のためのエスニック料理作りか何かがテーマで、1泊2日の社会教育のイベントに、私も大学4年生だったんですけども、参加させていただいたんです。そういうカル

チャーがここにきつとあるんですね。本当に忘れたことを言っていたで思い出しましたけれども、そういったものをやっぱり育てていながら、新たな世代に、委員からは30年のバトンタッチなんていうお話もありましたけれども、意識していながら、提言をまとめていきたいなというふうに思います。ぜひ御協力、御指導いただければと思います。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。小委員会の委員の方々にお話しいただきました。

ここから協議会の委員の方々に報告書に対する御意見なりをお話しいただきたいと思えます。

では、よろしく願いいたします。

○委員 私のほうで全く把握し切れていないというのが現状なんですけれども、私は中学校のPTA会長、自校のもやっているんですが、さっきやっぱり校長先生の力でみたいな話があって、それはすごくそうだなと思って聞いていました。

どうしても子どもの世代的に、この学校でのモデル事業というところが私としては一番気になるんですけれども、いろんな活動が大体そうなんですけれども、周知しているけれども、本当に必要な人はあまりこういうのを見ないのかなとか、見る余裕がないということもあるのかもしれないんですけれども、そういうのを、PTAの立場はもちろんですけれども、どうやって周知していくのがいいのかなとか、すごくいい取組なので、もっともっと多くの子がこういうのに参加できる間口が広がるといいのになと思って、いろんな話を聞かせていただきました。

内容に関しては、こちらの報告書をもう一度じっくり読ませていただきたいと思えます。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私もこの内容的なものはもう少し勉強しなければいけないところがありますので、そちらのほうの発言はちょっとできないところでございます。

今お話がありましたように、やはり届けたい人に、こういうところがありますよ、こういうことができますよ、敷居は低いですよとかということ、そういったところに届かないと意味をなさないと思うんです。その辺のくだりもこのページで、39ページでしょうか、それにちょっと近いものがあるのかもしれませんが、やっぱり何事でもそうですけれども、広報とかというところ、そこをしっかりと柱を立ててやっていく。それは継続をしていかなければいけないので、もちろん口コミというのが一番強いのは何とな

く分かるんですけれども、でも、なかなかそればかりではいきませんので、そういう届けたい人に届くようなものをやっぱりちょっと構築をしていくといいのかなというふうに思います。

質問とは全然違うようなお話になってしまいましたけれども、ごめんなさい。

○会長 いえいえ、ありがとうございます。

○委員 提言に関しては、改めて前期の提言をざっと今見させてもらおうと、もう既にやるべきことは示されているのかなというふうに改めて感じまして、あとは今日いろいろな御報告があつて、実践をどうしていくかで、それはもう待たなしで進めていくしかもうないんじゃないのかなということを感じました。

それで、ちょっと話はずれてしまうかもしれないですけども、私のほうで最後にお時間をいただくかと思っていたんですけども、ちょっと新しい問題ということで1つ今日、子ども、若者に関する先生方が集まっているので、御紹介しようかと思つていまして、チラシを1枚、皆さんのお席のほうにカラー刷りで裏表のものを配らせていただいているんですけども、推し活の問題です。「その『推し活』大丈夫？ メン地下って知ってる？」という保護者の皆さん宛てにメン地下、推し活を知っていますかということで、両面刷りで配らせていただいているんですけども、これは今新しい問題として、私ども警察の少年部門が注目している問題なんです。

「メンズ地下アイドル」という言葉も初めてお聞きになった先生方もいらっしゃるのではないかと思うんですけども、普通のアイドルとは違って、テレビとか、そういうものにいっぱい出るのではなくて、そんなにまだ有名ではなくて、渋谷とかにある小さなライブハウスでコンサートみたいなものを行っているんですけども、今、それに関する相談が警察にすごく増えているんです。娘がこの地下アイドルにのめり込んでいるという相談なんです。令和3年の相談件数なんかは前年に比べて3倍で、今年はさらにその倍ぐらいのペースで相談が増えている。多くが金銭の浪費とか、生活が乱れるということが主訴なんです。

例えば15歳、中学3年生の娘が約1年間で100万円ほど自宅から盗んで持ち出して、このメンズ地下アイドルに費やしてしまったとか、あと14歳、中3の娘が、物販やチェキの代金のためにパパ活をしたと。それで、メンズ地下アイドルというのは、そのコンサートを見るだけですと、通常、ただで入れたりするんです。ワンドリンクだけ、例えば500円とか、600円とかで買えば、コンサートを見るのはただですよと、1時間ぐらいのライ

ブはただで見せてもらえるんですが、その後に物販というのがあるんですね。チェキというのは、ポラロイド写真です。富士フィルムが作った機械、カメラで撮って、その場でフィルムが出てきて、それがその場でもう現像されるというものです。そのチェキのチェキ券というものをその業者が、アイドルが所属している事務所とかなんだと思うんですけども、売りつけるんですよ。1枚大体1000円ぐらいなんです。1枚では済まないんです。アイドルから自分の存在を知ってもらうためにはより多く購入するんです。アイドルと一緒に写真を写すわけです。そうすると、その写している間は、その大好きな推しのアイドルと一緒にその空間を共有できるということで、それが魅力でチェキをいっぱい買うわけです。そのアイドルのほうも僕と一緒にチェキをたくさん撮ってくれてうれしいなとかいうことをささやくわけです。そうすると、特に女の子を中心にこれにはまってしまうということで、そのチェキ券というのが1枚から売っているんですけども、100枚束になっているものとかも売っていて、チェキ券1枚1000円のを100枚買うと10万円ですよ。そういったものに家のお金を持ち出したり、それがもう無理となると、パパ活、援助交際をやってお金を手に入れる。

さらに、その購入をあおる行為がありまして、チェキを買うと購入ポイントというのが特典としてついてくるんです。ポイント特典で30ポイント、つまりチェキ券を3万円分買うと、アイドルと一緒に動画を撮ることができるとか、100ポイント、つまり10万円分、さっき言ったように、100枚買うと、単独で一緒にゲームセンターとかに行き行ってプリクラを撮れますよと。あと1500ポイント、150万円分を投入するとディズニーランドに4時間一緒に、半日行ってあげますよ。ただ、そのディズニーランドのお金、費用、入場料とか、行くまでの交通費は全部あなたが出してください、私は一緒に行き行ってあげるからという。一番高額なのが3000ポイント、300万円分をつぎ込むと、大阪日帰り旅行に一緒に行き行ってあげますよ。ただ、新幹線代とか、ユニバーサルスタジオとかで遊びに行くお金はあなた持ちですよ。こういうものにお金をつぎ込んでしまう。

こういうアイドルの推し活というものは昔からあるもので、でも、私は50過ぎなんですけど、昔から追っかけとか、マッチだとか、トシちゃんとか、女性だとあつたり、聖子ちゃんとか、明菜ちゃんという追っかけというのがあったんですけども、今推し活、全ての推し活が悪いわけではないんですけども、推しに興味を持ってほしいというその女の子とかの意識を利用して、つけ込んで、チェキを買わせる、あおるということで、あとは恋愛的な、擬似的な恋愛感情を構築して、僕は君のこと好きなんだよということをお

わせたりして、興味を持たせて、だから、僕のためにお金をつぎ込んでくれないかというようなことを持っていくわけです。

さらに悪いのは、これは例えば大人の女性とかがホストクラブに貢ぐようなものです。であれば、自分のお金ですし、大人ですので、いいですけども、この推し活、メン地下の悪いところは、明らかに中学生、高校生の年少者、少年をターゲットにしているんです。渋谷の駅前なんかでもよくチラシを配っていて、今日これからライブがあるから来てくれないとか、そういうようなことをやっていますし、あと先ほど言ったポイント制です。そのポイントも僅か1か月の間にためなければいけないというルールがあるんです。ためないと流れてしまうので、だから一気にお金を使わせて、一気にお金をむしり取るみたいな悪徳な業者、悪徳な地下アイドルが存在するというので、これに注意をしていたかなければいけないと。全てがそうではないとは思いますが、そういったものが明らかにおりますのでということで、先ほどのチラシなどを配らせていただいている。

あとこれの派生系でメンズコンセプトカフェということで、これは店舗を設けてやる形なんですけれども、言うなれば秋葉原なんかでいっときはやったメイド喫茶の男性版みたいなことで、そういったところに行って、お酒を提供するんですが、カフェという名目で、そこで僕もお茶を1杯いただいていい？とか、僕は大人だからお酒を飲んでいい？ということで、それを全部客に払わせるとか、そういうちょっと派生系もあるということで、今非常に注意をしていただかなきゃいけない問題で、私たちも対策を取っているところです。またト一横の問題のときにもお伝えしたんですけれども、ト一横というキーワードをお聞きになったら、警察などに相談してくださいということなんですが、このメンズ地下アイドルということに関しても、もしお近くで悩んでいらっしゃる方とか、これに子どもさんがはまっているということであつたら、早めに、被害が拡大する前に警察のほうに御相談をいただきたいということです。

今まで議論されてきたこととちょっと違う話になってしまったんですけれども、私からの情報提供ということでお話をさせていただきました。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。ちょっと衝撃的です。知らないというのは大変なことだと思いました。

○委員 取り急ぎ感じたことと言わせていただくと、やっぱり居場所の確保、あるいは若者の地域参加みたいなのが1つ気になるんだらうなど。そのためには、ほかの御意見でもありましたけれども、様々なお子さんがいらっしゃるの、世田谷区の例えば不登校

であれば、理由はそれぞれで、もう十人十色で、本当に必要な子になかなか届かないというところもあると思うので、いろんなメニューを用意することが必要なんだろうということと、いろいろ見てきても、なかなか行政が用意したメニューって実際にはあまりうまく機能しないことが多いと思っていますので、既存の民間の取組だったりとか、若者が集まる何かがある中で、多分我々ではなかなかもう思いつかないところに若者たちの関心はあるはずですので、そこは若者の発想をしっかりと取り入れていくというところが必要なかなと思いますので、この協議会も、もうちょっと若者委員が増えたらいいよねという話は多分当初からあったと思いますけれども、こうやってだんだん増えてきてもらって、実際に活性化してきたというところがあると思いますので、若者の感覚、意見をどのように取り入れていくのか、ここがやっぱり大人の頭で考えても多分なかなか有効な手段はないんだろうなというのは感じておりますので、そういったところを入れていただければありがたいなというふうに思います。

○会長 ありがとうございます。

○委員 何をすべきなのかということはまだ決まっているような気がしますが、やっぱり集まってきてくれた若者たちが、1回は来てみようとなるんだけれども、その後どう、今度はこうしようとか、今度また次は彼を連れてこようかなとか、そんなふうに持続性というか、そういうことができるような体制ができればいいなとは思いますが、それにはやっぱりその場が転々とするわけではなくて、常にここは空いているんだよということが示せるようなことがあるのが一番ありがたいんじゃないかなというふうには思いました。だんだんそこが定着していくということはいいのかなという感じはします。

本当に下北の取組というのはすごいなと思ったんですけども、それは若者が集まれる感覚はできるかなと思いますけれども、どこから来るか分からない、そういう若者がターゲットなのか、それとも今回の「若者とともに変わる地域」というこの地域って、世田谷全体のことなのか、それとも本当にもっと細かな自分の住む地域のことなのか、どこをターゲットにするのか。どうしても自分の住んでいる地域とか町会とか、小学校区単位とか、そういうことになると、どうしてもやっぱりやることも小さくなってしまったり、やっぱり下北みたいなことで大きくやると、やっぱり大きく目立ってアピールにもなるし、両方やることは僕は大事だと思うんですけども、世田谷ってこういうことができるすごいところなんだよという世田谷の魅力アップみたいな部分もありながら、やっぱり本当に届けたいのは、地域にいるんだろうなという感じがするものですから、どっちにどう踏み込

んでいけるような、両方カバーできるような施策になっていくのが大事なのかなという感じはいたしました。これを行政だけでやるというよりもやっぱり、もっと民間に力を使いながら、民間の場も提供してもらいながら、民間の広告媒体とかもどんどん活用させてもらいながら、やっていくのが大事なかなという感じがいたしました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 この33ページ、提言1のところの、この提言全てもううなずきながら見られる提言で、そのまま、多少言葉尻を変えても引き継げるものかなと思うんですが、特に提言1の若者が日常的に意見を表明できる。最近、世田谷区でも子どものグランドビジョンとかで、子どもの意見表明という言葉が盛んに出るようになっていて、今、こども家庭庁も、子どもの権利ということで意見表明というのが結構フィーチャーされています。

この前、児童館plusというのに参加して、児童館の職員とかが企画したイベントだったんですが、いろんな方が、民間の方もいらして、意見表明の前に意見の形成の部分、このところが重要じゃないかと。子どもは意見を持っていないわけじゃないけれども、それを形成していく過程、これは若者というところも、大人になればできるんでしょうけれども、それが結果、場所だったり、大人が安心できる場所をつくるというところなんじゃないかという話があって、私も大いに感銘を受けました。

先ほど委員が言ったこと、全く私も今、激しくうなずきながら聞いていたんですが、行政は何を持っているかというところ、場を持っているんですね。学校がまず90校あります。児童館は今25館でしたっけ、また増えますよね。さらに青少年交流センターが3つあります。1つはアップスがあつたりしますけれども、なかなか普通の人々が場というのを探すというのが難しかったり、当然お金もかかるので、やっぱり行政ができるのは場の提供かなというふうに感じました。ただ、先ほど言ったように、学校というのはすごくハードルが高い場所であると。例えば小学校の中には学童があります。学童の運営は子ども・若者部がやっていますけれども、そこの中にいながら、やっぱり私が見る限りではまだちょっと壁があるかなというふうにも感じますので、そこをどう開いていくかということが、以外に大きな課題なんじゃないかなと思いました。

私は学校カフェに多大な期待を最初からしていますと言っているのは、こここそ開いてほしいと思っているからなんです。あえてアンケートを取ってみたいんじゃないかなと。学校で学校カフェがあつたらどうか、それこそが1つの意見表明にもなるし、子ど

もたちの自由な発想、特に中学生ぐらいになると、やっぱりもうびっくりするぐらいの意見を持っている方もきつといるので、そこから拾っていく中の校内カフェみたいなものを、また形づくっていったらいいのかなと思いました。

あと、これはモデル事業ということは、横展開があるのかなのかが気になるんですけども、やっぱり継続という中には、1か所からまたできるところ、やっていくということも、実はこの事業の形としては必要な気がするので、今後やっぱり期待したいのと、継続するために何が課題なのかというのはちょっと整理していかなきゃいけないかなと思いました。それには予算も必要ですし、私たちもできることをしていきたいというふうに思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 必要なことは皆さんもう共通理解しているのかなというところで、行政に何を求めていくかということだと思います。行政の持っている公共施設で使える場というのは有効活用するべきだと思いますし、アップスがあるということは1つ大きな拠点なので、それをもうちょっと各支所ごとに置けないのかなと。世田谷は広いので、ちょっと遠過ぎますからね。1箇所だけだとなかなか展開が難しい部分もあると思うのと、児童館とか、その他いろんな場所を使えるところは、できるだけ居場所を展開していくのに利用したらいいと思うのと、夜中バージョンはやめてくださいと、そうじゃないというのは、本当に地域の方々、日中本当に大変な思いでいろいろ関わってくださっていることはありがたいと思っているんですが、夜中バージョンは1つのやっぱり課題としては認識しておく必要があるのと、警察との連携がまず、行政も課題としなきゃいけないと思いますし、警察のほうで、やっぱりこういう、今日すごい私、チラシを見ただけじゃよく分からなかったのが、説明を聞いてなるほどと思ったんですが、どんどん新しい、犯罪とは言えないのかもしれないけれども、犯罪に結びついてしまうようなことが起こっていて、警察との連携って本当に青少年、子どもたちの問題って大事なんだなということを改めて感じました。ですから、そういう意味では連携をしっかり行政には求めたいと思うのと、警察の方にもよろしくお願ひしたいと思いました。

それから、1つ提言7のところ、若者にも伝わる広報・PRというところで私はちょっと思ったんですけども、ツイッター、LINE、フェイスブック、ユーチューブとあるんですが、今、私自身もそんなに詳しいわけじゃないんですが、今、ティックトックが

物すごく見られているというか、ティックトックで情報を得る人がすごく増えていると聞いているんです。ユーチューブもショートというのができましたけれども、ティックトックの本当に数秒でがっとな面白とか、心をつかむとか、世田谷はこんなことをやっているのとか、そういう発信をもうちょっと柔軟にするといいいんじゃないかなと思うんです。今回のイベントの呼びかけとか、例えば学校カフェの呼びかけにしても、ティックトックでこんな面白い居場所があるよとか、数秒の間で流していけば、逆にいろんなところへ出ていけない子たちが見ている可能性ってすごくあるんじゃないかなと思ったんです。だから、それを入れられるといいのかなというのを1つ感じました。

それと、これは本当にこの会議には全然関係ないかもしれないんだけど、ちょっと一言だけ付け加えさせていただきたいんですが、シモキタのチラシ、何なのとおっしゃっていたでしょう。狼を解剖しているんだと私はすぐ分かったんですけども、それはやっぱり赤ずきんちゃんの話で、オオカミは悪者で、オオカミの最後はおなかを切っちゃってみたいな話のせいで、実はオオカミというのは生態系の頂点にある、なくてはならない——漢字を見てください。オオカミってけものへんに良いでしょう。なくてはならないよい動物なのに、ニホンオオカミが絶滅してしまったことで、シカの被害が物すごく増えていて、すごい金額を国は使っているという、シカはかわいいからと思うかもしれないんですけども、実はオオカミに食べられなきゃいけないところにいるのに、オオカミがいなくなってから大変なことになっているというのがありまして、アメリカではオオカミをわざわざ復活させたら、自然から、川とか、緑とか、いろんな動物とかが復活してすばらしいことになっているんですね、イエローストーンという国立公園で。ですから、ちょっとそこを、これを悪いと言っているんじゃないんです。誤解されている、これは本当に分かりやすく、私は分かったし、分かりやすい。だけれども、本当にそこは皆さん、ぜひミニ情報として知っていただけたら、すみません、子ども・青少年と関係ないことを申しました。本当にありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

定刻の時間が迫ってまいりまして、皆様に様々なまた大変面白い意見をいただき、ありがとうございました。この意見を踏まえて、第3章の提言の調整中というところをまとめていければと思います。これを来年3月の協議会で報告できるように進めてまいります。

本日、皆様の意見を集約いたしますと、若者が集まる何かをつくるということがキーワードになって、それが提言として出ているんですけども、それを今後どうつくっていく

かということで、周知方法、広報が大事だろうと。若者委員からはSNSの威力について、委員の方々から質問があったとき、SNSで知らない人が集まってきた。こういう威力も使いながら、この中身を濃くしていければと思います。

本日強調されたものは、繰り返されますが、場が大事ということです。その場をどうつくるかということ、これが今後の提言の内容になっていくのかなと思います。その場に集まって何をするかというと、何もしなくてもいいということもありますが、コミュニケーションがそこで自然に成立するという事だと思えます。コミュニケーションというのは、相手と共同の世界をつくり上げるプロセスという意味があるわけです。ですから、その共同のところで何かができるのであれば、この「若者とともに変わる地域～若者の視点で」ということが充実するのではないかというふうに思います。

ということで、これを私のまとめといたしますので、本日の議事はこれで終了となります。どうもありがとうございました。議事を進行、事務局にお戻しいたします。

○嶋津子ども・若者支援課長 会長、委員の皆様、誠にありがとうございました。今のお話を含めて、また今度小委員会のほう、あと2回、1月、2月とそれぞれございます。また、委員の皆さんと詰めていければというふうに思っています。また、来年3月の協議会では、委員の皆様には報告書を配付という予定でございますので、今後、原稿の確認など、御協力をお願いする場合もあるかと思えます。よろしく願いいたします。

それと、あと事務局からは次回の協議会の予定についてお知らせさせていただきます。次回の第6回協議会は3月29日水曜日14時30分からの開催を予定しております。開催通知は改めてまたお送りさせていただきます。また、この1月、2月の小委員会の日程を机の上に今配付させていただいている次第の記載のとおりでございますので、御確認いただければと思います。

本日は貴重な御意見を多数いただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和3年－4年度期第5回子ども・青少年協議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

午前11時55分閉会